



在宅ケア時代

自宅で介護を受けたい方

内閣府調査

42% → 74%
(H19年) (H28年)

～だからこそ看護の介入～

自宅での生活を続けるには、そのための土台作りが大切です。
身体機能やADLといったリハビリテーションの視点も大事ですが、
異常の早期発見や安定した全身状態の維持のために看護の視点も重要です。

○今回はリハビリテーション目的の依頼であったケースに看護師が関わったケースを紹介



血圧が低くてリハビリ介入が
思うように進まない新規の利用者Aさん

看護師が降圧剤が3種類処方されているのを確認。

↓ 主治医と服薬について相談

薬の調整により全身状態が安定。

リハ職による運動療法やADLの改善を目的とした
介入が行えるようになりました。

看護師が関わることでより安全にリハビリ
介入ができるようになりました。
看護師は他にも傷の処置や保清などを行い、
不足しているケアを行っています。



腰部ヘルニアでコルセットを装着
することになった既存の利用者Bさん



入浴介助を目的に看護が介入

安心して入浴できるようになる。

だけでなく・・・

コルセットの接触による皮膚のケア、爪切り、
服薬管理、栄養指導でも関わっています。
コルセットの着用方法についてもリハ職と連携
を図っています。

定期的に看護師が介入することにより、今まで
見えていなかった問題が分かり、早めのケアへ
と繋がりました。

在宅生活でお困りのことがありましたら、お気軽にご相談ください

ステーションの紹介

☆多職種が在籍しています

- ・看護師（12名）
- ・理学療法士（20名）
- ・作業療法士（10名）
- ・言語聴覚士（2名）

※全ての職種に男性・女性スタッフがいます

編集後記

新しく令和の時代が始まりました。当ステーション
としても何か新しい取り組みをしたいと考え、広報
紙「おかもん通信」を発行することになりました。
今後、当ステーションの取り組みや魅力をお伝えで
きればと思います。次回は10月発行予定です。